

1. 評価報告概要表

作成日 平成 19年 10月11日

【評価実施概要】

事業所番号	1090700061
法人名	医療法人 六花会
事業所名	グループホームあんず
所在地	群馬県館林市代官町8-15 (電話) 0276-80-2777

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年9月28日

【情報提供票より】(19 年 9月 12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤	5人, 非常勤 3人, 常勤換算 5.7人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1100 円		

(4)利用者の概要(9月 12日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 83歳	最低	65歳	最高	91歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	館林記念病院 コスモス歯科
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本年4月に開設された新しいグループホームである。施設内には通所介護の併設が予定されており、多機能性がある。また関連病院が徒歩圏内にあり、医療面でのサポートが確保されている。グループホームでの勤務経験を重ねた管理者は、他の職員との協働を重視しており、運営理念は全職員で練りあげられた。職員は、利用者の人格を尊重し、寄り添うケアを心掛けている。開設から半年でホームのかたちが増えてきたところなので、今後はさらにきめ細やかな取り組みを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が初めての調査であった。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価に取り組み、自己評価の段階で課題を検討し、勤務体制を変更するなどの改善に取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、会議の意義及び目的について確認がされ、その後サービス向上についての助言をもらった。具体的には、転倒や事故防止の対策、ボランティアの活用、市のサービスの利用について意見をもらった。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見・苦情等は、利用者や家族より何うように心がけている。今後は、意見箱の設置等で直接苦情を出しにくい家族の心情を理解した対応の検討をして頂きたい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>職員は、日頃から近隣住民との関わりを心がけている。地域のお祭りに参加したが、今後も地域行事や自治会等に積極的に参加し、利用者が地域住民として役割を担える環境づくりに努めて頂きたい。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に、管理者及び職員が共に考え、1. 一人ひとりの人格を尊重し、地域の方々と連携させて、真心を持って家庭的で安らかな生活が送れるように目指す。 2. 安全を重視し、心身の機能に目を向け、介護機能を生かした支援を行い、自立を目指す。という理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員が共につくりあげた理念は共有され、日々のケアでは、真心を持って利用者一人一人に声かけを心がけ、話を良く聴き、自宅での生活の継続のように過ごせるようケアすることに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方とは利用者と散歩に出かけた時等に挨拶を交わしている。地域のお祭りに参加したりしているが、ホームには利用者の友人が訪ねてくれる程度である。	○	今後も積極的な利用者の地域活動の参加を期待するとともに、ホームが地域の一員として受け入れられることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価である。自己評価の段階で、職員間で課題を検討し、実際に課題に対して勤務時間を変更するなどの改善に努めた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来、2ヶ月毎に開催している。出席者は、区長、地域住民、家族、利用者、病院関係者、市職員などである。会議では、参加者からボランティアや市のサービス利用の提案等の助言があり、サービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	日頃から施設運営での困りごとは、市高齢政策課の職員へ相談している。市からは生涯学習センターの資料をもらうなど、関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	面会時に、家族等へ生活の様子を報告している。病院受診後の診察の結果は、電話で報告している。定期的な家族等への報告はなく、面会が少ない家族には報告の機会が少ない。	○	利用者の日常の様子や暮らしぶりを定期的に伝えるなど、きめ細かいやりとりが行われることを期待する。
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	面会時に家族等から希望や意見を言ってもらえるように職員が心がけているが、直接的に意見を伺う方法のみである。	○	直接意見を伝えるにくい家族のために、意見箱の設置等の対策を期待する。
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	開設以来、職員の移動はない。法人の方針として、馴染みの関係を重視しており、職員の法人内の異動は行わない考えである。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	入職時には関連のグループホームにて3日間の研修を行い、その後関連病院にて救命救急時の対応についての研修を受けている。今後も、施設内研修やグループホーム連絡協議会のレベルアップ研修会に参加を予定している。		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡協議会に加入し、交換研修の予定がある。又、関連のグループホームとの意見交換を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の見学やホームの説明は必ず行っている。また面談等をして、本人のペースで生活できるように生活歴を聞き取り、何が困っていることなのか、不安なことについて聞くように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の際には調理のコツを教えてもらったり、元華道の先生にはその技を活かしお花を生けてもらったり、生活の場面で利用者の経験を活かしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の話を良く聞き、意向や希望の把握に努めている。本人が訴えられない場合には、家族等から話を聞いたり、本人の様子を観察して本人にとって何が必要なのかを検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員及び管理者が、家族等に日々の記録物から状況の説明をし、利用者や家族等から意見要望を聞き、月1回の職員会議やケアカンファレンスで、職員間で介護計画の検討をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態は、毎日の申し送りで確認している。6～3ヶ月の間にアセスメントを行い、ケアカンファレンスでケアプランを見直している。状態の変化がある場合は、すぐにケアカンファレンスを行い、計画変更している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連病院が徒歩圏内にあり、すぐに受診が可能である。現在は、月1回の定期受診をしている。関連病院への通院介助を、行っている。今後は、訪問看護や隣接のデイサービスを利用して行く予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、利用者及び家族等の希望を確認している。関連病院をかかりつけ医に希望する利用者には、通院介助を行っている。受診後は、必ず家族等へ報告をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者及び家族等が希望すれば、看取りを行うことを職員間では確認し合っている。家族には、延命処置や自然死についての同意書を交わしている。しかし、ターミナルケアが必要な利用者はいないため、利用者とは話し合われていない。	○	利用者や家族と早い段階からそして状況の変化のたびに繰り返し、対応の方針の話し合いをしていくことを期待する。
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの意思を尊重し、職員の声かけや態度は誇りを傷つけないよう配慮している。個人記録については、事務所の鍵のかかる書棚に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおよその一日の日課はあるが、利用者のペースに合わせて生活できるよう無理強いせず、意欲がでるような言葉かけを意識している。外出等も利用者のその日の体調に合わせて、可能な範囲で行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士の資格を持つ職員が献立を作成し、利用者が食べやすい献立や軟らかさに気を配っている。職員は、必ず利用者と共に食事をとりコミュニケーションに心がけている。食事前の挨拶は、交代で利用者が行い、その人の能力に合わせて片付けを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日14時頃からと時間は設定されているが、利用者の希望で入浴が可能である。プライバシーや入浴を楽しめるように配慮し、一人ひとりの入浴について考え、利用者一人に対し職員が一人つき個別で入浴できる体制をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居時の基本情報で生活歴などを確認し、絵を書く趣味のあった方の作品を飾ったり、お花やお茶の先生には日常の生活のなかで活躍して頂くなど、その人にあつた生活支援を行うよう努めている。書を書く方は、他の利用者と一緒に書道を行い作品を飾るなど利用者同士のたのしみごとにもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は、現在は暑い時期なので、利用者の体調を考慮して、希望する利用者とは出かけている。今後は、中庭でのイベントや外出行事を企画していく予定である。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事故・危険性を考慮し、家族等には説明をし、玄関は内側からは鍵を解除しなければ開かないようになっている。外出したい様子の利用者が玄関へ行った場合は、玄関横の事務所で待機していた職員が声をかけて、外出に付き添うようにしている。	○	職員は鍵をかけないケアの必要性を理解しているが、危険性を重視し施錠している。今後は職員間で検討を重ね、鍵をかけないケアの工夫の取り組みに期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署及び病院関係者の立会いの下、避難訓練を実施した。今後は、年2回行う予定である。火災報知機が作動するため、近隣住民にも連絡して行った。	○	地域住民への連絡だけにとどまらず、日頃より連携をとりながら理解を求め、協力体制を築いていくことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、チェック表を作成し確認している。食事は、同じ物を食べているように見えるが、利用者一人ひとりに副って、カロリー調整や食形態を変えており、自然に同じ食事を摂れるようになっている。糖尿病の利用者には、栄養士によるカロリー管理がされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼居間は、十分なスペースが確保されている。食堂兼居間からは、花が飾られた中庭を望め、中庭からの陽射しを感じることができる。台所は、食堂に面して対面式になっており、調理中も利用者との会話や見守りが可能である。談話スペースには、ソファを置いたり、冬場には掘りごたつを置き、居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使ってきたものを、自由に持ち込んでもらっている。		